

## The 13th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

細井 達矢

(日老医誌 2025 ; 62 : 439-440)

このたび、2025年5月23日～25日にマレーシア・クアラルンプールで開催された「The 13th IAGG Master Class on Ageing in Asia」に参加させていただきました。まずは、このような貴重な機会を与えてくださったIAGG、日本老年医学会、ならびに主催者の皆様に、心より御礼申し上げます。

今回のテーマは「Integrated care」であり、アジア各国から集まった若手医師・研究者とともに、3日間にわたり非常に濃密な学びと交流の時間を過ごしました。「老年科医はカオスが得意である」というユニークな導入で始まった本会では、「Falls and Sarcopenia」「Cognitive Frailty」「The Art of Deprescribing」など、多岐にわたるトピックが取り上げられました。中でも、Prof. Dr. Teh Pei Lee による講義では、世界の先端的な高齢者支援技術が数多く紹介され、日本がこの分野においても一部リーダーシップを発揮していることを指摘いただき、誇らしく感じました。

症例検討セッションでは、各国の医療制度や文化的背景をふまえつつ、患者にとって最も望ましい医療とは何かを多角的に検討する有意義な時間となりました。英語でのディスカッションは容易ではありませんでしたが、共に老年医学を学ぶ仲間とともに、言語の壁を越えた連帯感や学びを得ることができました。また、合間のティーブレイクでは、各国の医療制度や課題について情報交換を行ったほか、最近の流行や話題についても気軽に語り合うなど、終始和やかな雰囲気の中で交流を深めることができました。本マスタークラスではポスターセッションも開催され、私も拙いながらも英語で発表する機会をいただきました。参加者の先生方から多くのコメントや質問をいただき、今後の研究の方向性を見つめ直す貴重な機会となりました。



写真1 症例検討を行ったチームの仲間と



写真2 日本からの参加者と Prof. 荒井

今回の経験を通じて、統合的ケアを実現するためには、医療と介護、制度と文化といった多様な側面を乗り越える協働と相互理解が不可欠であることを改めて実感しま

した。今後もこの経験を糧に、アジアおよび日本における老年医学の発展に微力ながら貢献してまいりたいと思います。

---